

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成 31 年

全日本選抜柔道体重別選手権大会



第 41 回

全国高等学校柔道選手権大会



第 60 回

全国選抜少年剣道錬成大会



平成31年全日本選抜柔道体重別選手権大会

男子
66
kg
級

丸山城志郎が 阿部一二三との 13 分の大接戦を制す



男子 66kg級決勝＝丸山（左）対阿部

女子
78kg
超級

素根輝が 朝比奈沙羅を降し 3連覇を果たす



女子 78kg超級決勝＝素根（右）対朝比奈

平成31年全国日本選抜柔道体重別選手権大会が、4月6日・7日に福岡国際センターで男女7階級により行われた。この大会は、8月25日～9月1日に日本武道館で行われる2019世界柔道選手権東京大会の日本代表最終選考会を兼ねており、世界選手権の日本代表選手をかけて各階級で熱戦が繰り広げられた。

男子66kg級では、丸山城志郎（ミキハウス）が阿部一二三（日本体育大）との13分23秒に及んだ接戦を浮技で制し、連覇を達成した。

女子78kg超級では、素根輝（環太平洋大）が延長の末、朝比奈沙羅（パイク24）から小外刈で技有を奪い、3連覇を果たした。

◇ 試合は、全日本柔道連盟から選抜された各階級8名の選手がトーナメント形式により、最新の国際柔道連盟試合審判規定で行われた。

また、今大会では2020年東京五輪で使用する予定の畳が初披露された。新しい畳は、観客やテレビ視聴者がより見やすくなるために、試合場内は従来の黄から薄い青、場外はより鮮やかな赤となっている。

男子の部

60 kg級

勢いに乗る永山竜樹が頂点に



永山竜樹（左）が背負投を決めた

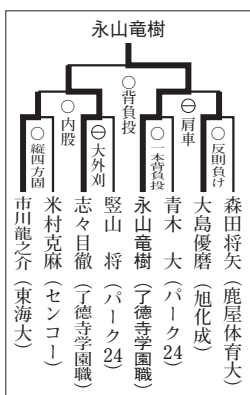
リオ五輪銅メダルの高藤直寿（パーク24）は欠場となり、決勝は、昨年11月の大阪、2月のデュッセルドルフグランドスラム優勝と勢いに乗る永山竜樹（了徳寺学園職）と志々目徹（了徳寺学園職）の手の内を知る者同士の対決。

試合後半に永山が背負投を決めて一本勝。永山は2年ぶり2度目の優勝を果たした。

◎60 kg級優勝Ⅱ

永山竜樹選手（了徳寺学園職）

「今まで練習してきたことを出せば必ず勝つと思っていました。投げに行き、一本をとる柔道に徹しました。世界選手権では、自分の柔道をしてメダルを獲りたいと思います」



66 kg級

丸山城志郎が13分の激闘を制す

丸山城志郎（ミキハウス）と世界選手権2連覇の阿部一二三（日本体育大）の頂上対決。昨年のグランドスラム大阪の決勝で両者は対戦しており、丸山が巴投で制している。丸山はその後の国際大会でも優勝を飾っており、過去、阿部との対戦成績は2勝2敗。今大会、阿部との直接対決が注目を集めていた。

場内が緊張感に包まれるなか、試合は開始された。ケンカ四つで組手争いを激しく展開する両者。阿部は引手不十分のまま担ぎ技を決めようとするが、それをしっかりと防ぐ丸山。再び阿部は足技を使いながら懸命に圧力をかけていく。序盤は確実に阿部が主導権を握っている。激しい攻防を見せながらもお互いポイントのないまま、試合はゴールデンスコア方式（以下GS）による延長戦に突入した。

両者は担ぎ技を繰り出すものの、互いに釣手を切り合って、十分に決まらない。延長1分半を過ぎると、試合再開の度に丸山が機を窺いながらゆっくりと前に進み、阿部がジリ

ジリと後退する場面が目立ち始める。指導2を受け、あと一つで反則負けとなる薄水を履む試合を余儀なくされた丸山だが、焦る様子は微塵もない。ここで阿部が担ぎ技、足技と、序盤にも増して何度も攻め立て、一段と場内の歓声も大きくなっていく。丸山も内股を何度も仕掛け、激しいせめぎ合いを展開した。

延長4分過ぎ、丸山が巴投を仕掛け阿部の身体が宙に浮いたが、間一髪で阿部はこれを凌いだ。延長5分過ぎ、ついに一瞬の隙を突いた阿部の足技が技有となった。しかし、ビデオ判定により取り消され、場内も一喜一憂。稀に見る大接戦となり、試合はなおも続く。

内股に出る丸山だが、阿部はこれを何とか堪えた。試合は徐々に丸山のペースとなり、肩で息をしている阿部を再び内股で攻める丸山。しかし、阿部は必死にこれを堪える。場内は拍手と歓声がうねりを上げながら鳴り響いている。そして延長9分過ぎ、不意に丸山は浮技を繰り出した。これが技有となり、ついに勝負



激闘を制し、勝利を掴んだ丸山

丸山城志郎（左）と阿部一二三の激闘。場内では拍手と歓声がうねりを上げながら鳴り響いた

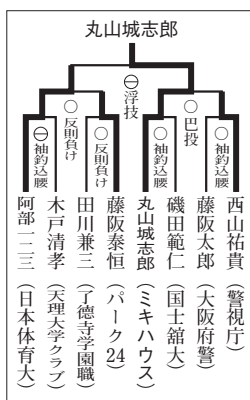
あり。丸山は13分23秒におよぶ大激闘を制し、見事に連覇を達成した。

◎66 kg級優勝Ⅱ

まるやまじょうしろう
丸山城志郎選手（ミキハウス）

「最後は、意地と意地のぶつかり合い、気持ちでの勝負でした。気持ちの面でも僕が上だということを見ていただけたのかと思います。僕自身、これからだぞという思いであります。世界選手権で自分が一番強いということを示して、東京五輪にも出場し、自分が世界で一番強いということを実証してみせます」

▽井上康生全日本柔道連盟男子監督
「海外ではありえない試合だと思えます（海外では審判が早めに指導をとります）。お互いが我慢の試合でしたし、世界で戦っている選手は違いを感じたことでしょう。丸山は今、勝ち続けていますし、阿部も意地を持って戦ったと感じました」



73 kg級 大野将平が我慢の柔道で優勝

リオ五輪メダリストの大野将平（旭化成）が登場。準決勝は海老沼匡（パーク24）と対決。両者は講道学舎の同門で、近年、海老沼は73 kg級に階級を上げている。

試合は互いにポイントはなく、延長に突入。GSでは何度も内股を放つ大野だが、海老沼は紙一重でそれを凌ぎ、ポイントには至らない。海老沼も背負投で応戦するが、大野の背は畳にはつかず、互いに一歩も譲らない白熱した試合となる。5分過ぎ、海老沼が背負投に出たところを大野が谷落で返し、技有を奪った。大歓声の中、9分におよぶ接戦は大野が勝利を収めた。



準決勝、大野将平（右）と海老沼匡の接戦

決勝は、大野と2017世界選手権覇者の橋本壮市（パーク24）の対戦。3年ぶりの直接対決となる。戦績は1勝1敗。

「決勝は自分自身との戦い」と試合前に語っていた大野。天理大の後輩である丸山の死闘を見てから決勝の畳にあがる。気合い十分だ。激しく組手を争う両者。橋本の攻撃をいなす大野。橋本も大野の組手を封じていく。そのまま、本戦は終了した。

GS突入後およそ1分、大野が指導2を受けて、互いに指導2で両者の退路は断たれた。橋本はしっかりと間合いを保ち、または大野の釣手をいなし、大野が攻め入る機を与えない。手数では橋本が大野に優っている。大野を研究し尽くした橋本の戦術に為す術がないかのようにみえる大野。延長5分30秒、これまで我慢強く堪え忍んでいた大野は、バランスを崩した橋本の隙を見逃さず、隅落を繰り出した。これが技有となり、大野が勝利。3年ぶり3度目の優勝を飾り、世界選手権へ向けての大きな手応えを感じとった。

◎73 kg級優勝Ⅱ

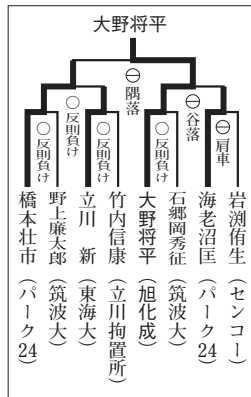
大野将平選手（旭化成）

「一日ハードな試合が続きました。昨が、優勝できて安心していません。昨年、畳の上に戻ってきててもモヤモヤしている時間がリオ五輪以前より増えて悔しかったですが、こうやって結果を残せるようになりました。我慢する試合をしてようやく結果が出てきたのだと思います。世界選手権

では変に色気は出さずに、今日みたいな我慢強い戦いで臨みたいと思います」



決勝戦、大野将平（右）がわずかなチャンスをものにした



■ 81 kg級 永瀬貴規、2年ぶりの頂点に

怪我で戦列を離れていたリオ五輪銅メダルの永瀬貴規（旭化成）が登壇。準決勝では、昨年の世界選手権

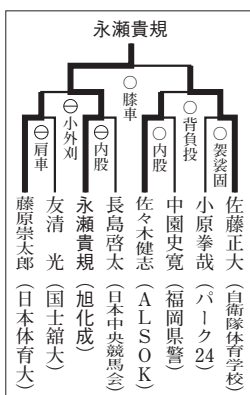
2位の藤原崇太郎（日本体育大）を小外刈で降して、決勝へと進んだ。

決勝では、佐藤正大（自衛隊体育学）に対して、組み合ったところに膝車を決めて、2年ぶり5度目の頂点に立ち、復活の狼煙を上げた。

◎ 81 kg級優勝Ⅱ

永瀬貴規選手（旭化成）

「2年前にこの大会で優勝してからはずっと負けっぱなしでしたので、嫌になった時期もありましたが、五輪を目指したいと思っていましたので、腐らずに、自分なりにどうしてできなかったのか考えて、ここまでやってきました。リオでの悔しさは今でも忘れていません。まだまだ、復活とは言えませんが、来年、東京五輪に何としても出場して優勝できるように頑張っていきたいです」



■ 90 kg級 向翔一郎、苦心の末の勝利



向翔一郎（左）が長澤憲大に手数で競り勝った

決勝は向翔一郎（ALSOK）と長澤憲大（パーク24）の対戦。向は準決勝で、代表候補の一人であった村尾三四郎（東海大）に腕挫腋固を決めて勝利。一方、長澤は準決勝でリオ五輪金メダリストのベイカー（日本中央競馬会）を指導3により破っている。

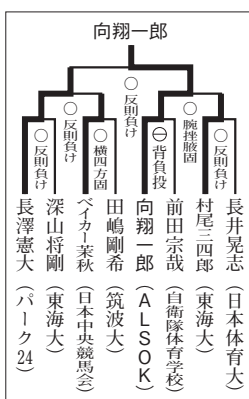
左相四つで組手争いを展開する両者。互角の攻防を見せるがポイントに入らず。試合前半・中盤に指導を重ねて、GSへと移った。長澤は内股を仕掛けるものの不発に終わる。向も負けじと背負投を放つがこれも決まらない。激しい組手争いはなお続くが、向の手数がやや多くなっ

たかに見えた延長1分44秒、長澤が指導3を受けて反則負け。軍配は向に上がった。その向は感極まり、熱くなる目頭を押さえきれずに男泣きした。

◎90kg級優勝

向翔一郎選手（ALSOK）

「グラントスラムパリで長澤選手との直接対決で負けてから、勝てずにいました。そこで色々な人に助けてもらっていることに気づいてここまで来れました。今回、負けたら世界選手権も東京五輪もないと思っていましたので、練習量では誰にも負けないと思ってやってきました。プレッシャーはすごかったですが、最後は全部出し切ろうと思って戦いました。ここからがスタートだと思っています。これからも、もつともつと自分を追い込んでいこうと思います」



100kg級 羽賀龍之介が念願の初優勝

リオ五輪銅メダリストの羽賀龍之介（旭化成）は、体重別選手権で今まで優勝をしておらず、今大会で優勝して有終の美を飾ろうと、初戦では内股で決し、準決勝でも飯田健太

郎（国士舘大）を得意の内股で降し、好調な滑り出しを見せる。決勝の対戦相手は、選抜では2年ぶりの対決となる一昨年世界選手権覇者のウルファロン（了徳寺学園職）。2年前



羽賀龍之介（上）が大内返で初優勝

はウルフが制している。

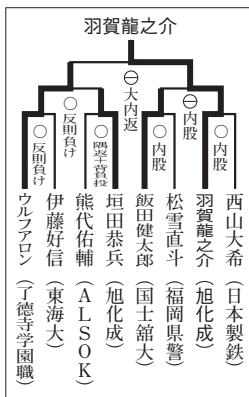
相四つで互いに出方を窺い、開始1分半にそれぞれ指導1を受ける。

そのまま両者は技によるポイントを取れずに本戦は終了。GSに入ると、スタミナに自信のあるウルフは積極的に組手争いで攻め立てる。対する羽賀も内股の機を窺う。ウルフは大内刈を仕掛けるがこれは不発。再び大内刈に出たウルフに、羽賀は大内返で技有をとった。羽賀が念願の選抜タイトルを勝ち取った。

◎100kg級優勝

羽賀龍之介選手（旭化成）

「選抜に優勝したところで、世界選手権には出場はできないとの思いも過りましたが、一つ一つ悔いのないように戦おうと思ったら、優勝という結果に繋がりました。現役もそう長くはないと思いますので、精一杯やり切りたいと思います」



100kg超級 原沢久喜、熱戦を制す

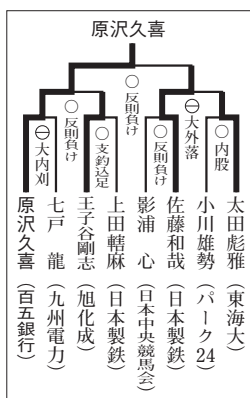
リオ五輪銀メダリストの原沢久喜（百五銀行）が登場。1回戦で七戸龍（九州電力）を大内刈で、準決勝

では王子谷剛志（旭化成）による反則負けで勝ち上がった。ベストコンディションとは言えないものの、今大会の原沢からは「必ず勝つぞ！」という気迫が感じられる。

決勝は、日本大学の後輩である佐藤和哉（日本製鉄）と対戦。手の内を知る者同士だが、「後輩には負けられない」と原沢は意気込んだ。宝刀の内股は佐藤に警戒されて防がれるものの、気持ちは切らさない。原沢は足技、投技と繰り出すもののやはり決め手に欠けて、延長戦へと突入した。原沢は息が上がりながらも何度も佐藤に攻勢をかけて、度重なる内股、小内刈など投技、足技の連続技で、佐藤の3つ目の指導を呼び込んだ。原沢が10分21秒におよんだ熱戦を制して、3年ぶり2度目の優勝に輝いた。

◎100kg超級優勝Ⅱ
原沢久喜選手（百五銀行）
「佐藤は大学の後輩なので意地でも負けられないと思って戦いました。結果的には指導3での勝利となりましたが、どうか一本をとりたいという思いで戦い続けました。全日本、世界選手権で金メダルを取れるように頑張りたいと思います」

原沢久喜（右）は気持ちを切らさず、最後まで攻め続けた



女子の部

48 kg級 高校生の古賀若菜が初優勝

昨年の世界選手権2位の渡名喜風南（パーク24）は怪我により欠場。リオ五輪3位の近藤亜美（三井住友海上）は1回戦で敗退した。決勝は根輝の1年後輩に当たる。



古賀若菜（左）による大外刈

古賀は開始23秒で大外刈をかけて技有をとり、序盤から攻めていく。終始古賀のペースで試合は進み、2分23秒には、相手が組みに来たところに大内刈を決めて一本勝となった。地元福岡で初出場で初優勝となった古賀。高校生の優勝は48 kg級では田村亮子（福岡工大付高出身）以来となった。

◎女子48 kg級優勝Ⅱ

古賀若菜選手（南筑高）

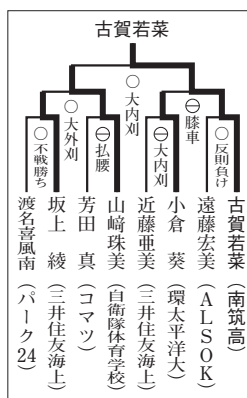
「強い選手がたくさんいるなかで自分の実力がどこまで通じるか確認できてよかったです。（素根） 輝先輩

52 kg級 角田夏実が優勢勝ちで連覇

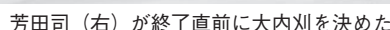
世界代表に内定している世界選手権優勝の阿部詩（日本体育大）が不参加のなか、勝ち上がったのは、角田夏実（了徳寺学園職）と志々目愛（了徳寺学園職）。了徳寺学園同士の対決となった。角田は、巴投と関節技を駆使してアジア大会などで優勝している。両者は、攻勢をかけるもののポイントは奪えない。角田は残り3秒で巴投を放ち、優勢勝ちとなり、2連覇を達成した。



角田夏実（下）が巴投を仕掛ける



が決勝戦に駆けつけてくれて『頑張れ！』と応援してくれました。とても心強く感じて、力になりました。現在、この階級をリードしているのは渡名喜選手と近藤選手です。少しでも2人に近づけるように頑張りたいです」



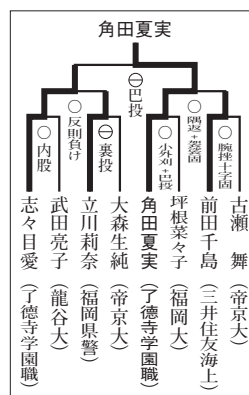
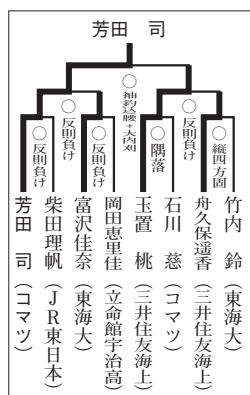
角田夏実選手（了徳寺学園職）
つのだ なつみ

■ 57kg級 芳田司が感涙の勝利

◎女子57kg級優勝!!

芳田司選手（コマツ）

「これまで練習では上手うまくないことが多く、苦しみました。まずは世界選手権を制して、絶対に東京五輪で優勝します」



「もに強化していきたいです」

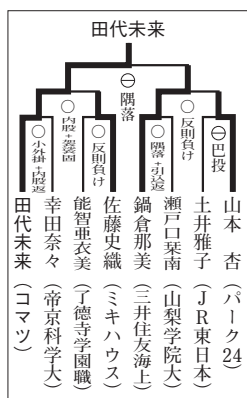
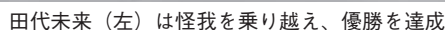
■ 63kg級 田代未来、2度目の優勝

決勝では、田代が鍋倉那美（三井住友海上）から隅落で技有を奪い、4年ぶり2度目の優勝を決めた。

◎女子63kg級優勝Ⅱ

田代未来選手（コマツ）

「沢山の方々に応援していただき、
思いきって戦うことができました。
ありがとうございます。バクーで



は悔しい思いをしました。が、それからは弱い自分には負けたくないという気持ちで練習しています。今年の世界選手権を頑張つて、東京五輪を目指します」

■70 kg級

大野陽子が執念で連覇を達成

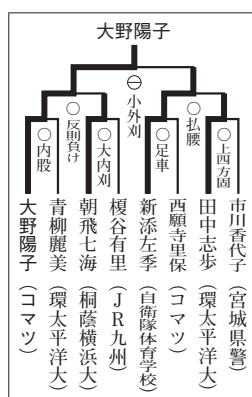
世界選手権連覇の新井千鶴（三井住友海上）は世界代表に内定しているため、出場はしていない。

決勝は、昨年世界選手権3位の大野陽子（コマツ）と新添左季（自衛隊体育学校）が対戦した。GSで、大野が新添に仕掛けた小外刈が技有となった。延長戦を制して、大野が連覇を達成した。

◎女子70 kg級優勝Ⅱ

大野陽子選手（コマツ）

「1試合、1試合、勝ちにこだわりの強い気持ちでやってきました。決勝では、どんな小さなチャンスでも繋げていこうと戦っていました。それが最後の技有に繋がったのだと思います。今年一年が大きな舞台となりますので、もう一度世界で戦えるように頑張りたいと思います」



■78 kg級

濱田尚里が4年ぶりの戴冠

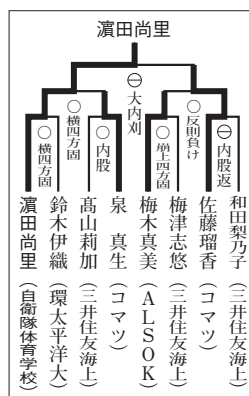
決勝は、昨年世界選手権金メダルの濱田尚里（自衛隊体育学校）と佐藤瑠香（コマツ）の対戦。濱田は1回戦、準決勝とも横四方固で一本勝を収めている。

濱田の寝技を警戒しつつも足技で圧力をかけていく佐藤。試合中盤に、濱田は帯を掴みながら、重心が後方にかかっていた佐藤に上手く合わせて大内刈を仕掛けた。これが技有となり、試合を優位に進める。その後、佐藤も激しく攻めたて、濱田に指導2が入るものの、時間一杯となり、濱田が勝利。濱田が4年ぶりの2回目の優勝を飾った。

◎女子78 kg級優勝Ⅱ

濱田尚里選手（自衛隊体育学校）

「得意の寝技だけでなく立技も一生懸命に練習してきたので、最後に大内刈が決まって、よかったです。一つ一つの試合を大事にしてこまめな練習を続けてきました。世界選手権連覇に向けて頑張りたいと思います」



78kg超級 素根輝が10代で3連覇

決勝は、18歳の素根輝（環太平洋大）と昨年世界選手権優勝の朝比奈沙羅（パーク24）との対決。素根は昨年の選抜体重別、全日本女子選手権とともに朝比奈を降している。

試合は、朝比奈がケンカ四つで素根の釣手を封じて主導権を握るものの、互いに決め手に欠けて素根に指導2、朝比奈に指導1が入り、GSへと移った。GS3分過ぎに、技を

かけた後の朝比奈の足元がふらついているのを見逃さず、素根は足技で攻勢を強めた。互いに指導2のイーブンとなり、心理上の試合主導権は素根へと移った。焦る朝比奈が払巻込に來たところを、素根が朝比奈の左足を刈って技有を奪い、試合を決



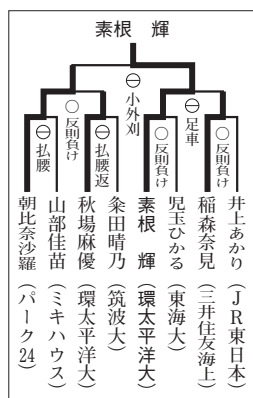
素根輝（手前）が延長の末に朝比奈沙羅を降した

めた。素根は3年連続3回目の優勝。10代での3連覇は、12連覇を達成した阿武教子以来、24年ぶりとなった。

◎女子78kg超級優勝Ⅱ

素根輝選手（環太平洋大）

「指導をとられずに相手が指導を受けて自分のペースで試合を進めるのがベストですが、そう簡単にはいきませんので、とにかく攻めまくって投げて勝つぞと思っていました。長い試合は苦ではありません。最後は狙っていたわけではありませんが、朝比奈選手が不用意に掛けてきたのでチャンスだと思い、体が勝手に動きました。しっかり投げて勝てたのは自信になりました。今日、勝ったことが直接のアピールになるとは思いますが、皇后盃でも気を抜かず優勝を狙おうと思います」



【大会結果】

◆男子	優勝		2位	3位	
100kg超級	原沢久喜（百五銀行）	（3年ぶり2回目）	佐藤和哉（日本製鉄）	太田彪雅（東海大）	王子谷剛志（旭化成）
100kg級	羽賀龍之介（旭化成）	（初優勝）	ウルフ アロン（了徳寺学園職）	垣田恭兵（旭化成）	飯田健太郎（国士舘大）
90kg級	向翔一郎（ALSOK）	（2年ぶり2回目）	長澤憲大（パーク24）	ペイカー茉秋（日本中央競馬会）	村尾三四郎（東海大）
81kg級	永瀬貴規（旭化成）	（2年ぶり5回目）	佐藤正大（自衛隊体育学校）	佐々木健志（ALSOK）	藤原崇太郎（日本体育大）
73kg級	大野将平（旭化成）	（3年ぶり3回目）	橋本壮市（パーク24）	海老沼匡（パーク24）	立川 新（東海大）
66kg級	丸山城志郎（ミキハウス）	（2年連続2回目）	阿部一二三（日本体育大）	藤阪泰恒（パーク24）	西山祐貴（警視庁）
60kg級	永山竜樹（了徳寺学園職）	（2年ぶり2回目）	志々目徹（了徳寺学園職）	大島優磨（旭化成）	市川龍之介（東海大）
◆女子					
78kg超級	素根 輝（環太平洋大）	（3年連続3回目）	朝比奈沙羅（パーク24）	秋場麻優（環太平洋大）	稲森奈見（三井住友海上）
78kg級	濱田尚里（自衛隊体育学校）	（4年ぶり2回目）	佐藤瑠香（コマツ）	梅木真美（ALSOK）	泉 真生（コマツ）
70kg級	大野陽子（コマツ）	（2年連続2回目）	新添左季（自衛隊体育学校）	朝飛七海（桐蔭横浜大）	田中志歩（環太平洋大）
63kg級	田代未来（コマツ）	（4年ぶり2回目）	鍋倉那美（三井住友海上）	佐藤史織（ミキハウス）	山本 杏（パーク24）
57kg級	芳田 司（コマツ）	（3年ぶり2回目）	玉置 桃（三井住友海上）	富沢佳奈（東海大）	舟久保遥香（三井住友海上）
52kg級	角田夏実（了徳寺学園職）	（2年連続2回目）	志々目愛（了徳寺学園職）	前田千島（三井住友海上）	立川莉奈（福岡県警）
48kg級	古賀若菜（南筑高校）	（初優勝）	山崎珠美（自衛隊体育学校）	坂上 綾（三井住友海上）	小倉 葵（環太平洋大）

—2019 世界柔道選手権東京大会 日本代表選手—

【男子】

100kg超級＝未 定（4月29日に決定）
 100kg級 ＝ウルフアロン（了徳寺学園職）
 90kg級 ＝向翔一郎（ALSOK）
 81kg級 ＝藤原崇太郎（日本体育大）
 73kg級 ＝大野将平（旭化成）
 66kg級 ＝丸山城志郎（ミキハウス）・阿部一二三（日本体育大）
 60kg級 ＝高藤直寿（パーク24）・永山竜樹（了徳寺学園職）
 団体 90kg級＝村尾三四郎（東海大）
 団体 73kg級＝橋本壮市（パーク24）

【女子】

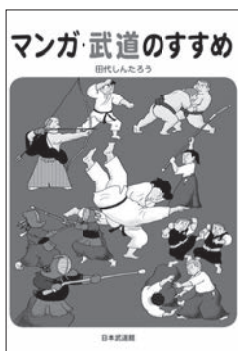
78kg超級＝未 定（4月21日に決定）
 78kg級 ＝濱田尚里（自衛隊体育学校）
 70kg級 ＝新井千鶴（三井住友海上）
 63kg級 ＝田代未来（コマツ）
 57kg級 ＝芳田 司（コマツ）
 52kg級 ＝阿部 詩（日本体育大）
 48kg級 ＝渡名喜風南（パーク24）

■2019世界柔道選手権東京大会
日本代表選手16名が決定！

大会終了後の強化委員会にて、世界柔道選手権東京大会の男女代表選手14名が選出され、その発表記者会見が行われた。女子52kg級の阿部詩が代表選手は以下の通り。
 （日本体育大）と、女子70kg級の新井千鶴（三井住友海上）は、すでに代表に決定していた。

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

相撲は塔尾武夫、住吉和則、下村勝彦、
安井和男の4氏を掲載！

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



男女代表選手発表記者会見。
左から井上康生男子監督、金野潤強化委員長、増地克之女子監督

なお、個人の代表選手は各階級2名を上限に、男女とも9名の選出が可能となっている。男子66kg級では阿部一二三とともに丸山城志郎が、男子60kg級では、高藤直寿とともに永山竜樹が選手された。また、混合団体メンバーには男子90kg級の村尾三四郎、男子73kg級の橋本壮市が選ばれた。

この選出に関して、井上康生全日本柔道連盟男子監督は「2020年の代表候補を見据えて、村尾など若手の選手にも団体の選手としてプレ大会となる世界選手権を体験し、励んでもらいたい」とコメントしている。



井上康生
全日本柔道連盟男子監督

また、今回、男子81kg級では永瀬貴規（旭化成）、男子100kg級では羽賀龍之介（旭化成）の2人のリオ五輪メダリストが優勝したが、代表には選出されなかった。井上監督は「彼らの東京五輪出場は厳しい道のりだと思っています。しかし、少しでも可能性がある限り挑戦してもらいたい」

し、彼らが選手を脅かすのは代表候補にとって非常にいい刺激になると思います」と解説した。

総括として、金野潤全日本柔道連盟強化委員会委員長は、「世界選手権に向けた代表選手が決定しました。オリンピックを戦う上でも世界選手権と同じ会場である日本武道館で実施することは選手にとって大きなアドバンテージになると思います。どんな苦しい状況でも全階級で金メダルを取るように目指していきたいです」と決意を新たにしました。

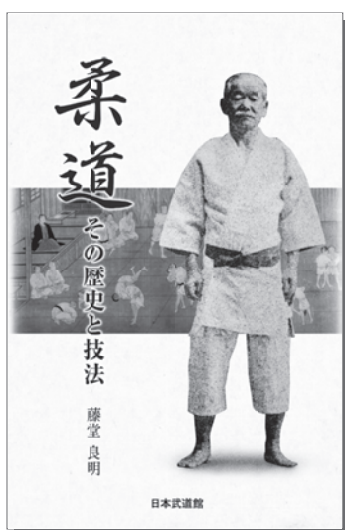
※男子100kg超級、女子78kg超級と、女子の残り2枠、また団体代表の詳細は本誌6月号でお届けします。

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法</p> <p>体術の起こりと技法</p> <p>組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法</p> <p>講道館柔道の創設と技法</p> <p>嘉納治五郎の乱取開発</p> <p>講道館柔道の行事と整備</p> <p>警視庁武術大会の勝利と技法</p> <p>学校体操への柔道導入の試み</p> <p>学校における柔道普及の実態</p> <p>高専柔道の起こりと技法</p> <p>嘉納治五郎の他武道への接近</p> <p>精力善用国民体育の創案と技法</p> <p>全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法</p> <p>第二次大戦中の柔道界と技法</p> <p>第二次大戦後の柔道禁止と復活</p> <p>格技柔道から武道柔道へ</p> <p>女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法</p> <p>竹内流腰廻</p> <p>関口新心流柔術</p> <p>起倒流柔術</p> <p>起倒流柔道</p> <p>直信流柔道</p> <p>真之神道流柔術</p> <p>天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題</p> <p>柔道技法の変遷と特徴</p> <p>柔道の国際的普及と発展</p> <p>段位制度の国際比較</p> <p>柔道の国際化と課題</p> | |

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

役に
立つ

少年柔道指導法

DVD付き

役に
立つ **少年柔道指導法**

向井 幹博



少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 第1部 解説編 | 第9章 少年柔道の未来のために |
| 第一章 少年柔道は柔道指導の原点 | 第二章 実技編 |
| 第二章 基本動作の指導 | 第一章 礼法の指導 |
| 第三章 技の指導 | 第二章 受け身の指導 |
| 第四章 教育の中の柔道 | 第三章 基本動作の指導 |
| 第五章 指導の工夫 | 第四章 トレーニング法の指導 |
| 第六章 少年規定の変遷と問題点 | 第五章 柔道の練習法 |
| 第七章 柔道の安全指導 | 第六章 投技の指導 |
| 第八章 東日本大震災への講道館の対応 | 第七章 固技の指導 |

A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



男子団体戦決勝＝国士舘・斉藤立（上）が内股を決める

男子
団体戦

国士舘が連覇達成

第41回全国高等学校柔道選手権大会

第41回全国高等学校柔道選手権大会が3月20日（個人戦）・21日（団体戦）、日本武道館で開催された。

男子団体戦決勝では、国士舘（東京）が大牟田（福岡）を1人残しで破り2連覇を達成した。女子団体戦決勝では、富士学苑（山梨）が埼玉栄（埼玉）を2-0で降し、念願の初優勝を果たした。

男子個人戦81kg級では、竹市大祐（福岡・大牟田）が2連覇を達成。女子個人戦57kg級では中水流りり（東京・渋谷教育学園渋谷）が初優勝を飾った。

◆団体戦（21日）

試合は、男子が体重無差別の5名編成による勝ち抜き試合、女子が3名の体重別（先鋒Ⅱ52kg以下、中堅Ⅱ63kg以下、大将Ⅱ無差別）による点取り試合のトーナメント方式で行われた。

判定基準は「技有」または「僅差（指導差2）」以上で勝負を決した。試合時間は男女とも3分で、決勝戦のみ4分で行われた。

○男子

試合は52チームが出場。男子決勝は、2連覇を狙う国士館（東京）と、前日の個人戦で2階級の優勝者を輩出している大牟田（福岡）の対戦となった。

国士館（東京） 1人残り 大牟田（福岡）

岡田 陸	引 分	竹市大祐
長谷川碧	技 有 〇	服部大喜
道下新大	〇反則負け	服部大喜
道下新大	引 分	久保田皓晴
藤永龍太郎	引 分	森 健心
斉藤 立	〇内 股	石本慎太郎

先鋒戦は国士館・岡田陸と前日の



男子団体決勝（国士館・道下と大牟田・服部の試合）＝道下（左）が服部を攻める



男子団体決勝＝
国士館・藤永（左）と大牟田・森の試合

個人戦81kg級で2連覇を達成した竹市大祐の対戦。岡田が先に技を仕掛けるも、竹市が素早く反応し叩き返す。試合は両者ポイントのないまま引分に終わる。

次鋒、大牟田・服部大喜と国士館・長谷川碧が対決。序盤は長谷川が主導権を握り有利に試合を進める。しかし、試合開始から1分、服部が長谷川の内股を返し、技有を奪う。その後、長谷川も反撃に出るがポイントを奪えず、終了。大牟田が一歩リードする展開に。

国士館・道下新大と大牟田・服部の試合。何としても追いつきたい道下は積極的に攻める。2戦目で疲労

が見える服部は思うように前に出ることができない。道下が服部を攻め立てる。3分10秒、服部が指導3の宣告を受け、終了。国士館が追いつく。

国士館・道下と大牟田・久保田皓晴の中堅同士の戦い。両者互角の試合展開。互いにポイントを上げられず終了。

続いて、国士館・藤永龍太郎と大牟田・森健心の対戦。怪我で本調子ではない大將・斉藤に負担をかけたこと、藤永は積極的に前に出る。対する森も藤永に食らいついていく。一進一退の攻防は互いに決め手を欠き、結果は引分。勝負の行方は大將同士の対戦へ。

優勝がかかる一戦。84年ロサンゼルス五輪と88年ソウル五輪金メダリストの故・斉藤仁氏の息子で、昨年本大会で国士館を優勝へ導いた斉藤立が大將として登場。対する大牟田は1年の石本慎太郎。今年は左腕に怪我を負った出場となった斉藤だが、序盤から内股で石本に圧力をかける。開始2分25秒、斉藤が石本に豪快な内股を決め、一本勝。昨年同様、国士館が優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ国士館・岩淵公一監督

「大將の斉藤が怪我をしていたので、その他の選手は（斉藤に）負担をかけないように頑張ろうという気持ちがありました。また、団体で3冠（インターハイ、金鷲旗、本大会）を獲得することが斉藤自身の夢であり、怪我をしたくらいで出場しないのは皆に悪いという気持ちがあったのだと思います。そのお互いを思う気持ちが試合を積極的に進め、優勝という結果に繋がりました。ただ、怪我を負ったので、決勝でも斉藤を温存しておきたかったです」

◎優勝Ⅱ国士館・斉藤立選手

「全日本選手権後の東京予選から練習が出来ず、不安でしたが、チーム一丸となつて戦ったので勝つことができました。本大会直前まで、出場するかどうかを監督と話し合いました。チーム全員で勝ち、団体3冠を獲得という気持ちが強かったので、出場を決めました。決勝戦は最高の状態で試合を繋げてくれたので、チームの皆には頭が上がらないくらい感謝しています」



女子団体決勝・大将戦＝黒田亜紀（富士学苑・手前）が内股返しで技有を奪う

○女子

試合は48チームが出場。決勝戦は、初優勝を狙う富士学苑（山梨）と昨年の優勝校・夙川学院（兵庫）を準決勝で破った埼玉栄（埼玉）の対決。

富士学苑（山梨） 2-0 埼玉栄（埼玉）

藤城 心 ⑧ 僅差 山口さき

瀬戸亜香音 引分 渋谷萌々音

黒田亜紀 ⑩ 技有 佐藤星麗七

先鋒は、前日の個人戦52kg級で準優勝した富士学苑・藤城心と埼玉栄・山口さきの対戦。序盤から、藤城が果敢な攻めを見せ、山口に指導が与えられる。その後も組もうとしない姿勢が見られ、山口に指導2が宣告される。そのまま終了となり、藤城が貴重な先勝をあげる。

続く次鋒戦は富士学苑・瀬戸亜香音と埼玉栄・渋谷萌々音が対戦。優勝に大手をかけた富士学苑・瀬戸が先に仕掛ける。対する渋谷も負けじと技を繰り出す。激しい技の応酬が展開されるが、ポイントはあげられず。制限時間を迎え、引分に終わる。

優勝の行方は大将戦に委ねられた。運命の大将戦、前日の個人戦無差

別で準優勝の富士学苑・黒田亜紀と埼玉栄・佐藤星麗七の顔合わせ。黒田が、追いつきたい佐藤の動きを読み切り、冷静に対応する。試合開始から3分が経過したところで、佐藤が強引に内股を仕掛ける。これに対して黒田が佐藤の内股を返して技有を奪う。佐藤の反撃も及ばず、試合終了。富士学苑が念願の初優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ富士学苑・矢野雄大監督

「昨日の個人戦で3人とも決勝で2位という悔しい結果になりました。しかし、そこで学んだ最後まで気を抜いてはいけないという教訓が今日の結果に繋がったと思います。」

去年も十分優勝できる可能性があったのですが、準々決勝戦で負けてしまい、今回はその悔しさをバネに、頑張ってくれました。今回の優勝は選手や保護者など多くの人に支えられて達成したので、感謝しています」

◆個人戦（20日）

男女とも体重別4階級と無差別の5部門で、いずれもトーナメント方

式で争われた。試合時間は3分間

で、時間内に勝負が決しない場合は、時間無制限のゴールデンスコア

(以下GS)によって競われた。

○男子

▽60kg級

決勝は昨年3位の福田大晟(滋賀・比叡山)と濱田大樹(千葉・木更津総合)の対戦。試合は両者指導1で本戦が終了。GSに入り、両者寝技を中心に勝負が展開される。GS2分20秒、濱田が内股を仕掛けたところを、福田が返すもポイントにはならない。直後に主審が映像の検証を行い、濱田の肩がついたと判断され、福田が技有を奪って優勝を決めた。

▽66kg級

決勝に残ったのは、昨年3位の唯野已哲(千葉・木更津総合)と岸武蔵(兵庫・報徳学園)。試合は両者に有効な技はなく、GSへ突入。決着はGS開始から7分、唯野が一瞬の隙をつき、巴投を仕掛け、技有を奪う。唯野が11分におよぶ試合を制した。

▽73kg級

田中裕大(福岡・大牟田)と石原樹(群馬・前橋商業)の決勝戦。試合中盤で田中が寝技に入ろうとした石原を上手く返して抑え込む。抑え込みは12秒で解けるも田中が技有を

獲得する。試合は田中がリードした状態で終了。田中が優勝を飾った。

▽81kg級

決勝は、2連覇がかかる竹市大祐(福岡・大牟田)と小畑大樹(佐賀・佐賀商業)の対決。竹市は投技を中心に仕掛け、小畑に圧力をかける。そして試合開始から1分、竹市が袖釣込腰からの背負投で、技有を奪う。小畑も内股で攻めるが、引手の位置が悪く、上手く技を決めきれない。対する竹市は小畑の技を躲し、ポイントを与えない。相手の動きを読んだ竹市がリードしたまま終了。連覇達成となった。

◎優勝Ⅱ竹市大祐選手(福岡・大牟田)

「周囲から2連覇の期待もあったので、優勝できてホッとしています。昨年の優勝から、自分の技をより研究し、投技の強化をしました」

▽無差別級

決勝戦は、オール一本勝で決勝まで勝ち上がった高橋翼(岡山作陽)とグリーン・カラニ海斗(東京・日体大荏原)の顔合わせ。グリーンが試合開始から1分30秒、内股返で技有を奪う。しかし、その後、高橋が大内刈で技有を奪い、そのまま縦四方固でグリーンの動きを封じ、合技一本。逆転優勝となった。



男子個人 60kg級決勝＝
福田(手前)が内股返しで技有



男子個人 66kg級決勝＝
唯野(右)が巴投で優勝を決めた



男子個人 81kg級決勝＝竹市(手前)
背負投で技有を奪い連覇達成

○女子

▽48 kg級

吉岡光（千葉・八千代）と中馬梨歩（鹿児島・霧島市立国分中央）の決勝。中馬が優勢に試合を進めるも有効技はなく、GSに突入。GS開始から1分10秒、吉岡が小外刈を仕掛けるも、中馬はうつ伏せになって凌ぐ。しかし、吉岡は、伏せた中馬に送襟絞を仕掛ける。中馬がこの技で落ち、試合終了。吉岡が初優勝を決めた。

▽52 kg級

決勝は白石響（熊本・熊本西）と昨年3位の藤城心（山梨・富士学苑）の顔合せ。本戦は両者技の決め手に欠き、GSへ。GSから積極的に前に出始めた白石が藤城を背に担ぎ、押し込んで背負投を決め、技有。白石が悲願の初優勝を飾った。

▽57 kg級

決勝戦は開会式で選手宣誓を務めた中水流り（東京・渋谷教育学園渋谷）と谷朱音（山梨・富士学苑）



女子個人 57kg級決勝＝中水流（右）が大内返で技有



女子個人 63kg級決勝＝畑田（上）が上四方固で一本勝

の組合せ。両者、序盤から長い手足を活かした足技の掛け合いが続く。中水流が得意の大内刈で攻め、谷は受けに回る。谷は寝技で反撃するも、中水流はそれを上手く切り抜ける。GSに入った直後、谷が内股を仕掛けてきたところ、大内返しで切り返し、技有で初優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ中水流り

（東京・渋谷教育学園渋谷）「優勝できて本当に嬉しいです。周りの方々への感謝の気持ちでいっぱい」

いです。練習では、人一倍努力することを心掛けてきました。将来は全国で名前が知られるような選手になりたいです」

▽63 kg級

畑田暁菜（兵庫・夙川学院）と小齊穂菜美（山梨・富士学苑）の1年生同士の決勝戦。序盤、お互い組み合おうとせず、両者に指導1が与えられる。試合開始1分30秒、畑田が「亀」になった小畑をひっくり返し、そのまま上四方固で抑え込み、一本。初優勝を飾った。

▽無差別級

決勝は朝飛真実（神奈川・桐蔭学園）と桑形萌花（兵庫・夙川学院）の対戦。朝飛は試合序盤から、得意の内股で桑形を攻め立てる。試合開始2分45秒、桑形が内股を仕掛けるも朝飛が小外刈で返し技有を奪う。試合は朝飛が逃げ切り、去年3位の雪辱を果たす。





団体戦女子優勝＝富士学苑（山梨）



団体戦男子優勝＝国士館（東京）



個人戦女子優勝者（左から＝48kg級・吉岡、52kg級・白石、57kg級・中水流、63kg級・畑田、無差別級・朝飛）



個人戦男子優勝者（左から＝60kg級・福田、66kg級・唯野、73kg級・田中、81kg級・竹市、無差別級・高橋）

【大会結果】

○男子団体Ⅱ①国士館（東京）②大牟田（福岡）③作陽（岡山）、日体大荏原（東京）

○女子団体Ⅱ①富士学苑（山梨）②埼玉栄（埼玉）③敬愛（福岡）、夙川学院（兵庫）

○男子個人

▽60 kg級Ⅱ①福田大晟（滋賀・比叡山）②濱田大樹（千葉・木更津総合）③田中祥（長崎・長崎南山）、福田虎輝（大阪・東海大仰星）

▽66 kg級Ⅱ①唯野己哲（千葉・木更津総合）②岸武蔵（兵庫・報徳学園）③光岡岳人（福岡・大牟田）、池崎晴登（長崎・長崎日大）

▽73 kg級Ⅱ①田中裕大（福岡・大牟田）②石原樹（群馬・前橋商業）③島本真司郎（東京・日体大荏原）、旭征哉（茨城・つくば秀英）

▽81 kg級Ⅱ①竹市大祐（福岡・大牟田）②小畑大樹（佐賀県・佐賀商業）③西垣拓磨（長崎・長崎南山、宮本和志（熊本・九州学院）

▽無差別級Ⅱ①高橋翼（岡山・作陽）②グリーン・カラニ海斗（東京・日体大荏原）③金澤聡瑠（千葉・木更津総合）、長谷川功斉（兵庫・育英）

○女子個人

▽48 kg級Ⅱ①吉岡光（千葉・八千代）②中馬梨歩（鹿児島・霧島市立国分中央）③吉本萌乃（佐賀・佐賀工業、西村瑞穂（京都・立命館宇治）

▽52 kg級Ⅱ①白石響（熊本・熊本西）②藤城心（山梨・富士学苑）③川田歩実（東京・修徳）、前川夏海（福井・福井工大福井）

▽57 kg級Ⅱ①中水流り（東京・渋谷教育学園渋谷）②谷米音（山梨・富士学苑）③西川みはる（広島・広島皆実、込山未菜（神奈川・相洋）

▽63 kg級Ⅱ①畑田曉菜（兵庫・夙川学院）②小齊穂奈美（山梨・富士学苑）③山口葵良梨（福岡・大牟田）、鈴野杏優（神奈川・横須賀学院）

▽無差別級Ⅱ①朝飛真実（神奈川・桐蔭学園）②桑形萌花（兵庫・夙川学院）③米川明穂（静岡・藤枝順心）、黒田亜紀（山梨・富士学苑）

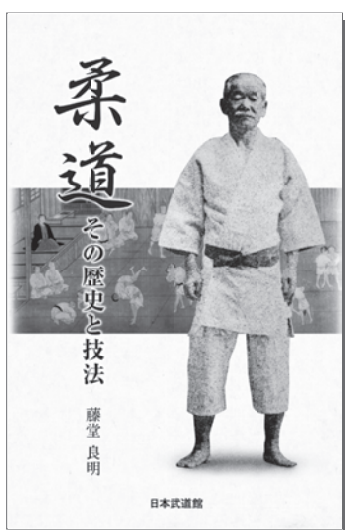
好評発売中!

柔道

その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた*武道としての柔道、を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法	第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選士権大会の開催と技法	第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法
第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術	第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題	



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

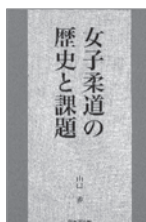


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

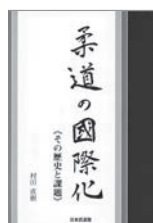


武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)



基本錬成：手刀で面を行う参加者たち

文部科学大臣杯 第60回記念 全国選抜少年剣道錬成大会

小学生剣士2千名が水戸に集う

第60回記念全国選抜少年剣道錬成大会（主催Ⅱ一般財団法人水戸東武館、後援Ⅱスポーツ庁ほか）は、3月31日、茨城県水戸市の水戸市青柳公園市民体育館で開催された。

本大会は水戸東武館小澤武第四代館長が日本の将来を担う少年・少女を育成すべく、全国に呼びかけを行い、昭和35年に第1回大会を開催してから今年で60回目を迎える。

大会には、全国各地から434チームの剣士・監督・父兄の計4000名（その内剣士は2170名）が参加し、予選はトーナメント方式、最優秀賞決定戦は予選の上位3チームがリーグ戦で争った。

最優秀賞決定リーグ戦では、小曽根剣友会（大阪）が総合成績1位になり、最優秀賞を獲得した。また、2位に鬼高剣友会（千葉）、3位に洗心道場（愛知）が入賞した。

▽開会式

本大会は小学生剣士日本一を決める伝統的な大会の一つである。開会式前から多くの剣士がウォーミングアップを行い、試合に備えていた。

8時30分に開会式が始まった。ま

三誓願
一、勉強します
一、剣道します
一、よい行いをします
東武書

三誓願



「三誓願」を唱える剣士たち

ず、主催者を代表して、岡田広大会
会長（水戸東武館理事長・参議院議
員）が開式の辞を行った。

次に小澤智大会副会長（水戸東武
館第七代館長）から、「全国から数
多くの少年剣士たちが水戸の地に集
まり本日を迎えることができまし
た。また、平成最後の本大会ですの
で、大きな思い出になると思いま
す。皆さん頑張りましょう」と挨拶
があった。その後、優秀旗返還が行
われ、来賓祝辞に移った。

小野寺俊茨城県副知事からは「今
日は全国各地からたくさんさんの少年・
少女の剣士をお迎えし、本大会が開
催されますことを喜ばしく思いま
す。剣道の素晴らしさは、厳しい稽
古を積み、剣の技を磨き、礼儀作法
をしつかり学ぶことで精神を鍛える
ことにあります。剣道を通じてしつ
かりした良い心を育て、立派な大人
になっていただきたいと思います」
と話があった。

最後に参加者代表宣誓として水戸
東武館の高橋仁美選手が明るく元氣
に宣誓を行った。

その後、閉式の辞が述べられ、開
会式は終了した。

▽基本錬成

開会式終了後、参加者全員による
基本錬成が行われた。体育館いっぱ
いに広がった少年・少女剣士たちは
小澤館長の指揮に合わせ、元氣よ
く、手刀で面、小手、胴の素振りを
行った。

その後、小澤館長が東武館の精神
として掲げられている「三誓願」（勉
強します／剣道します／よい行いを

小澤智大会副会長（水戸東武館館長）インタビュー 第60回記念大会を迎えて



小澤智大会副会長
（水戸東武館館長）

やつと継続して60回になったと
実感しております。水戸には藩校
の弘道館がありましたが、明治に
入り、武士の世の中がなくなり、
藩校もなくなりました。水戸で伝
わってきた剣術の歴史が途絶える
ことを危惧し、弘道館で師範をし
ていた小澤寅吉が剣道を後世に伝

します）を力強く唱えると、剣士た
ちもこれに合わせ、会場全体に響き
渡る声で復唱した。

▽試合

本大会は、少年少女たちの剣道の
力試しという意味が込められてい
る。つまり、自己のベストを尽くし
た結果の成績を記録するという「記
録会」である。審査員は少年・少女
の剣士たちをつぶさに観察、評価し

えるために水戸東武館を作りました。
弘道館の教育の柱である「文
武不岐」を全国の青少年に伝える
ため、本大会は水戸で開催されて
おります。

また、本大会は全国から子供た
ちが集まっています。彼らにとつ
て全国の相手と対戦することは今
後の人生を生きていく上で一つの
財産になると思います。今後もこ
の素晴らしさを全国の子供たちに
一人でも多く伝えていきたいで
す。そして、国内だけでなく海外
の人々にもこの精神を伝えていき
たいと考えております。



自分のベストを尽くして勝負する



河原で最終調整を行う剣士たち



正々堂々と試合に臨む



監督との反省会を行う剣士たち



仲間へ声援を送る

ている。表彰についても順位や優勝という勝敗を印象つける言葉は使わず、優秀賞、殊勲賞などの言葉を大会の当初から用いている。そのため、剣士たちは「順位」にこだわるのではなく、試合の中で闘う相手と向き合い、自分が本大会までにどの程度成長することができたのかを感じることができるのである。各剣士は、己のベストを出し尽くすべく、その気合は、場内に鳴り響いた。

試合は2分三本勝負による団体戦で争われた。予選を勝ち上がり、最優秀賞決定リーグ戦に進んだのは小曾根剣友会（大阪）と鬼高剣友会（千葉）と洗心道場（愛知）の3チームとなった。

▽最優秀賞決定リーグ戦・第3試合
最優秀賞は3チームでリーグ戦を行い、勝点（勝利数）で決定する。勝点が同数の場合は勝者数が多いチームが最優秀賞となり、勝者数も同数の場合は、取得本数によって最優秀賞を決める。第2試合まで小曾根と鬼高の勝点・勝者数・本数はそれぞれ、小曾根が1・1・1、鬼高が1・2・3となり、鬼高がリードしていた。



最優秀賞決定リーグ・第3試合＝小曽根・和田（右）が大野に面を決める

▽最優秀決定リーグ戦結果（勝者数 / 取得本数）

チーム名	洗心道場	鬼高剣友会	小曽根剣友会	勝点	勝者数	本数	順位
洗心道場		1 / 3	1 / 1	0	2	4	3
鬼高剣友会	2 / 3		1 / 2	1	3	5	2
小曽根剣友会	1 / 1代表	3 / 3		2	4	4	1



小曽根剣友会 3-1 鬼高剣友会
 （大阪）（千葉）

先鋒 和田貫汰 メー 大野颯太
 次鋒 北東慶太 コー 小沼優奈
 中堅 松本大輝 × 松本誠也
 副将 豊田蓮杜 メー 加来昂誠
 大将 西半大輝 ーメメ根岸嗣英

先鋒戦は小曽根・和田と鬼高・大野の対決。試合開始から1分、和田が出ばな面を決める。和田がリードしたまま終了。貴重な先勝をあげた。次鋒戦は、小曽根・北東対鬼高・小沼。試合が動いたのは開始から十数秒、北東が小沼の一瞬の隙をつき、小手を決め、一本。その後も、北東は小沼に1本も取らせず勝利する。中堅戦は引分で終了。副将戦は小曽根・豊田と鬼高・加来の試合。優勝に大手をかけた豊田は加来の技を捌き、機会を窺いつつ攻撃を仕掛ける。試合中盤、豊田が素早く面を決め、一本。その後、試合は豊田が相手の技を上手く捌き切り終了。この時点で小曽根の最優秀賞が確定となる。大将戦は鬼高・根岸が意地を見せ、小曽根の西半に面を2本決め、勝利した。

山神眞一 著

(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。
現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。
付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円＋税

目次

第一章 一眼子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章 一足少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章 三胆指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章 四力技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの際の指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章 残心

海外での剣道事情／中学校における剣道授業あとかき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	序章
第一章 近現代における刀剣思想	第二章 探求の旅をはじめににあたって
第二章 近代以降の刀剣思想	第三章 刀剣思想の源流
第三章 鹿島神宮日本刀奉納鍛錬	第四章 古代中国の宝剣伝説 太阿の剣
	第五章 干将莫耶の宝剣伝説
	第六章 高祖の斬蛇剣
	第七章 道教と剣
	第八章 古代朝鮮の刀剣思想
	第九章 神話的イメージの形成
	第十章 神話的世界の形成と剣神の誕生
	第十一章 天より降る剣 節霊剣
	第十二章 天地を繋ぐ剣 草薙剣
	第十三章 信仰のなかの刀剣思想
	第十四章 祀る剣 祀られる剣
	第十五章 辟邪の呪剣
	第十六章 うけいの呪術と剣
	第十七章 修験道と剣
	第十八章 四世における刀剣思想
	第十九章 三種の神器の不思議
	第二十章 『平家物語』にみる三種の神器
	第二十一章 『太平記』に語る草薙剣像
	第二十二章 近世剣術における刀剣思想
	第二十三章 剣術伝書に語られる日本神話
	第二十四章 新当流にみる霊剣の技術
	第二十五章 示現流にみる心の利剣
	第二十六章 近世剣術における刀剣思想の展開
	第二十七章 近代以降の刀剣思想
	第二十八章 古代と現代を繋ぐ刀剣
	第二十九章 鹿島神宮日本刀奉納鍛錬
	第三十章 稽古照今

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。